

これからの時代の水道事業

～ 新水道ビジョン ～

その1



国の水道ビジョンが新しくなりました。

「水道ビジョンって何?」って思われた方も多いのではないのでしょうか。水道ビジョンとは、平成16年に厚生労働省が策定した国の水道行政の基本方針です。

この水道ビジョンの公表から9年を経過した現在、水道を取り巻く環境が大きく変化してきたことから、これを全面的に見直して策定されたのが「新水道ビジョン」です。

水道事業を皆さまにより深くご理解いただくために、これからの時代の水道行政の基本方針となる「新水道ビジョン」についてお知らせします。

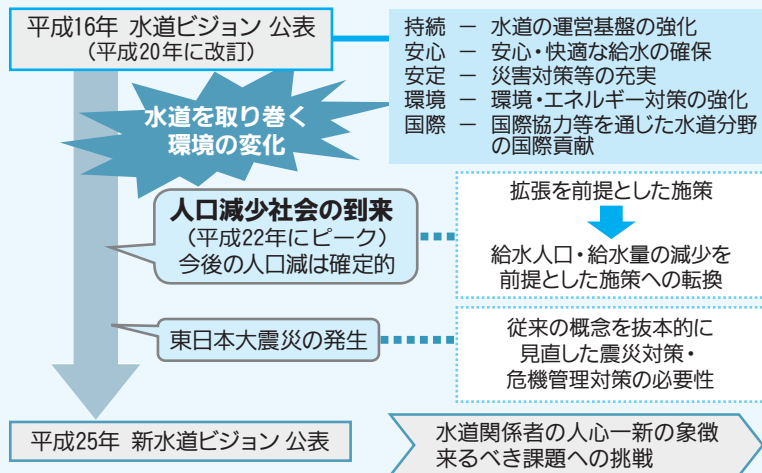
<見直しの背景>

日本の水道は、これまでおよそ130年にわたり施設の建設拡張を進め、普及率の向上に努めてきました。

しかし、近年は右肩下がりの経済社会の状況が続いていること、また人口減少が急速に進むと見られていることから、今後は水需要が減り給水収益は大きく減少していくと予測されています。

また、東日本大震災という甚大な災害を経験し、これまでの震災対策を抜本的に見直した危機管理の対策を早急に講じることが求められています。

こうしたことから、厚生労働省ではこれまでの水道ビジョンを全面的に見直しました。



人口減少社会の到来

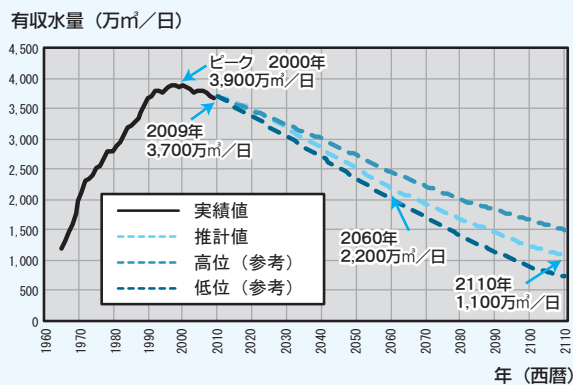
日本の総人口は平成22年頃の1億2,807万人をピークとして減少傾向に転じています。これからは、「給水人口や給水量の減少を前提とした施策」を考えなければなりません。

日本の将来推計人口

50年後は… 4,100万人減 2010年の68%まで減少
100年後は… 8,500万人減 2010年の33%まで減少

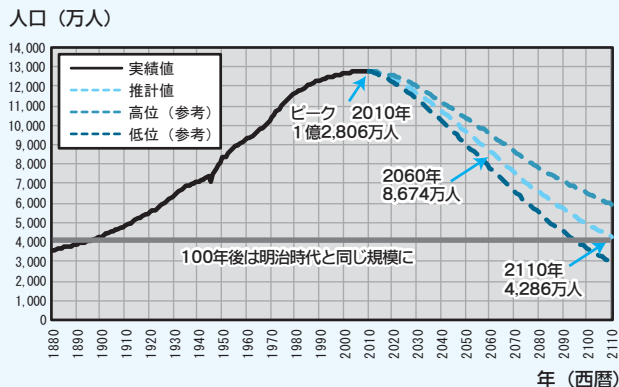
上水道事業の将来の需要水量(有収水量ベース)

50年後は… 2,200万 m^3 /日 2009年の59%まで減少
100年後は… 1,100万 m^3 /日 2009年の30%まで減少



※ 「有収水量」とは、料金徴収の対象となった水量

→次号も引き続き、「新水道ビジョン」についてお知らせします。



1人1日当たりの使用水量の低下もあり、有収水量は人口よりもさらに急激に減少

給水収益の減少

お問い合わせ先 経営企画課 TEL 22-9310